

静岡県高等学校体育連盟剣道専門部 県大会申し合わせ事項

下記の事項は、「静岡県高等学校総合体育大会剣道競技（以下、県総体）」及び「静岡県高等学校新人体育大会剣道競技（以下、新人大会）」における、静岡県高体連剣道専門部としての統一的な事項である。参加校はこれを遵守することとする。

1 日程について

- (1) 大会は2日間で行い、初日に男子個人・女子団体、2日目に女子個人・男子団体の順で実施する。
- (2) 開会式は、初日の競技開始前に行う。出場全校・全選手の参加が望ましいが、初日に試合がない学校・選手の参加は強制しない。
また、2日目は競技開始前に、略式の開始式を行う。(女子個人・男子団体出場選手)
- (3) 表彰式は、各部門終了後に行う。
(男子個人－女子団体開始前、女子団体－決勝戦終了後、女子個人－男子団体開始前、男子団体－閉会式時)
なお、賞状は県総体＝団体上位4校、個人上位8名、新人大会＝団体上位8校、個人上位4名に授与するが、表彰式での授与は、すべて上位4校・4名までとする。
- (4) 閉会式は、2日目の競技終了後に行う。出場全校・全選手の参加が望ましいが、強制はしない。

2 大会要項、参加申し込みについて

- (1) 大会要項及び参加申込書は、各地区予選終了後「静岡県高体連剣道専門部ホームページ」に掲載するので、出場校はダウンロードして使用する。
- (2) 参加申し込みは、指定期日までに「郵送」と「メール」の両方で行うこととし、FAXでの申し込みは受け付けない。
なお、郵送は必着日を厳守し、参加申込書に校長印を必ず押印する。
- (3) 申し込み締め切り後の、団体のオーダーの変更は認めない。
- (4) 登録選手・監督の変更及びそれに伴う補欠選手の補充は、大会当日朝の顧問会議までに指定用紙に記入して、大会委員長に提出し顧問会議で承認を得る。その場合、補欠を飛び越して選手に登録することはできない。
また、変更する選手の人数は原則2名以内とする。
- (5) 競技開始後の選手変更については、監督が本部席の選手変更用紙に記入し、選手係の許可を得た後、当該試合場主任に提出する。

3 引率責任者、監督について

- (1) 引率責任者は、校長の認める当該校の職員とする。
- (2) 監督は、校長が認める指導者で、それが外部指導者の場合も、参加申込書の監督欄に氏名を記入し、校長の承認を得る。
また、外部指導者は傷害・損害賠償責任保険に加入することが望ましい。
- (3) 監督が当該校の職員である場合は、原則として引率責任者を兼ねる。

4 試合場フロアへの入場制限について

- (1) 競技中、競技役員・生徒補助員以外で、試合場フロアへ入場できるのは、監督と補欠を含めた登録選手7名までとする。ただし、登録選手であっても、出場部門以外の競技中は入場を控える。
また、監督以外の顧問の入場は可とするが、当該校の試合時、選手・監督席には座らない。
- (2) 個人戦の場合、出場選手1名につき、1名の付き人を認める。ただし、試合時は選

手・監督席には座らない。服装は剣道着・袴を着用する。

- (3) 練習時の入場制限は以下のとおりとする。(試合会場以外のサブ道場での練習を含む。)
- ア 開会式前は、出場部門に関わらず、全登録選手の練習を許可する。
 - イ 団体戦の場合、登録選手7名の練習を許可する。
 - ウ 個人戦1名のみのお出場の場合、1名の練習相手の入場を許可する。
 - エ 個人戦終了後の練習時間は、初日は女子団体出場校のみ、2日目は男子団体出場校のみ練習を許可する。

5 竹刀検量について

- (1) 竹刀の規格は、(一財)全日本剣道連盟試合・審判規則のとおりとする。
- (2) 竹刀検量は、2日間行うが、初日に合格した竹刀は、破損等ない限り2日目も有効とする。(再検量の必要はない。)
- (3) 指定時間以外の検量は原則として行わない。試合・練習で検量シールが剥がれた際は、本部席にて対応する。
- (4) 検量は一人3本以内とする。

6 所作・礼法について

- (1) 団体の場合、選手席には大将が監督側(両サイド)になるように座る。
- (2) 団体の礼は、1チームずつ行う。(次のチームが横に並ばない。)選手は9歩の間合いに整列する。
- (3) 次のチームは、次回選手席(ない場合は選手席後方)に面・小手・竹刀を置いたまま先に整列をし、前の試合のチームと入れ替わりに試合場に入り、相互の礼を行う。また、この間に試合が終わったチームは速やかに選手席から退場する。
- (4) 選手の入れ替わり時に、握手や胴突きなどはしない。
- (5) 個人戦の場合、選手席での相互の礼は行わない。監督同士が相互の礼をする場合は、選手の試合前後の礼に合わせて行う。
- (6) 試合中、竹刀を交換する際は、試合者本人が選手席に戻り交換する。(他の選手・付き人や監督が試合場まで持っていかない。)
- (7) 試合が長時間にわたり、面をはずしての休憩措置がとられた場合、選手は一旦選手席に戻り面をはずす。給水の必要がある場合は、選手席後方に下がり給水する。この間監督や他の選手からの指導・指示がないようにする。(審判主任が注意する。)
- (8) 監督の腕時計、携帯電話、その他計時機能のついた機器の監督席への持ち込みは禁止する。(選手・付き人も同様)
また、試合場フロアでの写真・ビデオ撮影も禁止する。

7 競技規則・競技方法について

- (1) (一財)全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則」及び(公財)全国高等学校体育連盟剣道専門部並びに静岡県高等学校体育連盟剣道専門部「申し合わせ事項」により実施する。
- (2) 競技方法は次のとおりとする。
 - 男女団体=各地区予選により参加資格を得た男子計40校、女子計26校で、トーナメント方式にて行う。各地区から選出される校数は、男女とも地区予選に参加したチーム数の比率により決定する。
 - ただし、「新人大会」において、全国高等学校剣道選抜大会への出場枠が2校となった場合のみ、上位4校による決勝リーグを実施する。
 - 男女個人=各地区予選上位16名、計48名で、トーナメント方式にて行う。
- (3) 試合時間は次のとおりとする。

団体＝男女とも4分。時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとする。

個人＝男女とも4分。時間内に勝敗が決しない場合は延長戦を行い、先に1本取ったものを勝ちとする。延長戦の試合時間は4分とする。延長戦が継続する場合は、延長戦2回ごとに「休息」・「休憩」を交互に繰り返す。

※勝敗の決するまで延長戦を継続する場合、延長戦2回ごとに「休息」と「休憩」と交互に繰り返すが、主審は試合者の疲労度等を観察し、さらに休憩等の措置が必要と判断したら、「止め」を宣告し深呼吸等の措置をとることができるものとする。

※「休息」…立礼の位置まで下がらせ深呼吸させる。試合再開までは1分程度を目途とする。

※「休憩」…選手を選手席に戻し、面をはずさせ給水させる。試合開始までは4分程度を目途とする。審判員も一度審判席に戻る。

(4) 団体のチーム編成は5名（補欠2名）とするが、3名以上であれば出場を認める。
（全国総体・全国選抜大会において、4人及び3人チームの出場を認める）

- ① 4人チームは「次鋒・中堅・副将・大将」、3人チームは「中堅、副将、大将」に選手を登録する。
- ② 大会当日や大会中にやむを得ない理由で選手が5人及び4人揃わない場合は、4人または3人による試合に限って認める。その際は、試合前に審判主任へ申し出て、4人及び3人チームのオーダーに変更する。
- ③ 5人及び4人のチームが4人及び3人のチームと対戦する場合は、登録選手の中で不戦勝ちの選手を試合前に決定できる。人数の多いチームは、オーダー順を変更してはならない。
- ④ 不戦勝ちの選手は不戦勝ちの宣告を受ける。

(5) 団体戦の勝敗は、勝者数、総本数の順で決定し、いずれも同数の場合には、その試合に出場した選手の中から選出した、任意の代表者による代表者戦により決定する。

代表者戦の試合時間は4分。一本勝負とし、時間内に勝敗が決しない場合は、個人戦の延長戦と同様に扱う。

ただし、「新人大会」のリーグ戦における代表者戦の実施方法は別に定める。

(6) 順位決定は次のとおりとする。

「県総体」

団体＝3位決定戦は行わず、準決勝で敗退した2チームを3位とする。

ただし、東海総体への出場順位は、準決勝で、優勝したチームに負けたチームを3位、準優勝したチームに負けたチームを4位とする。

個人＝3位決定戦を行う。（ただし、両者3位として表彰する。）

5～8位決定戦は行わず、準々決勝で敗退した選手4名を5位とする。

ただし、東海総体への出場順位は、準々決勝において、優勝した選手に負けた選手を5位、2位に負けた選手を6位、3位に負けた選手を7位、4位に負けた選手を8位とする。

「新人大会」

団体＝トーナメント方式の場合、3位以降の決定戦は行わず、準決勝で敗退した2チームを3位、準々決勝で敗退した4チームを5位とする。

ただし、東海選抜大会への出場順位は、準決勝で、優勝したチームに負けたチームを3位、準優勝したチームに負けたチームを4位とし、準々決勝において、優勝したチームに負けたチームを5位、2位に負けたチームを6位、3位に負けたチームを7位、4位に負けたチームを8位とする。

決勝リーグを実施する場合、勝ち点、勝者数、総本数の順で順位を決定する。

詳細は別に定める。

個人＝3位決定戦は行わず、準決勝で敗退した選手2名を3位とする。

(7) 団体戦において、補欠と交代した選手の再出場は認めない。

(8) 不正用具の使用が発覚した場合、使用者を負けとし、相手に2本を与え、既得本数は認めない。

また、使用者は以後の試合に出場できないこととするが、この罰則は当該部門にのみ適用する。(個人戦と団体戦をまたがない。)

なお、団体トーナメント戦における補欠の出場は認めるが、決勝リーグ戦にあっては、不正用具使用者のすべての試合を負けとし、補欠の出場は認めない。

(9) 足袋・サポーターの使用は、届け出の必要はないが、規則に則ったものであること。

8 その他

(1) 団体戦出場校は、模造紙1/4大に学校名・選手名(名字)を書いたオーダー表を用意すること。(裏面に学校名を記入した補欠用単票を含む。)

また、オーダー表は、学校名を書いた封筒(角形2号)に入れ、第1試合を行う試合場へ提出すること。5人に満たないチームはオーダー表を選手ごとに切り取り、裏側に出場する選手の順番を記入する(各校で切り取って封筒に入れて提出)。

(2) 選手は、紅白の目印(たすき)を用意すること。

(令和6年1月改定)

静岡県高等学校新人体育大会剣道競技 決勝リーグ戦 実施方法

- 1 試合は2試合場（第1・第4試合場）を使用し、同時進行する。（各試合場3試合、計6試合を行う。）
- 2 審判員は本部指名とする。ただし、同一審判員が2試合審判を行うこともある。（2試合連続もありうるが、3試合連続は避ける。）
- 3 試合時間は4分、時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとする。
- 4 団体の勝敗が決しない場合、代表者戦は行わず、リーグ戦すべての試合が終了した時点で、次の要領で順位を決定する。

- ①勝ち点の多いチームを上位とする。（勝ち1点、引き分け0.5点、負け0点）
- ②勝ち点と同点の場合は、勝者数の多いチームを上位とする。
- ③勝ち点・勝者数が同点の場合は、総本数が多いチームを上位とする。
- ④勝ち点・勝者数・総本数がすべて同点の場合は、下記5の要領で代表者による順位決定戦を実施する。

ただし、1位・2位は決定しているが、3位・4位が同点という場合は順位決定戦を実施せず、抽選で3位・4位を決定し、東海選抜大会の出場順位とする。（表彰は両校3位とする。）

5 順位決定戦の実施方法

- (1) 代表者は、リーグ戦最後の試合に出場した5人の中から選出した任意の者とする。（補欠と交代した選手の再出場は認めない。）
また、順位決定戦が複数試合に及ぶ場合は、選手の安全面等に配慮し、試合ごとに代表者を変更することを可とする。
- (2) 審判員は、リーグ戦の当該試合を行った審判員とする。
- (3) 礼法については、代表者戦1巡目のみ当該試合に出場した5人を整列させて団体の礼を行い、2巡目に入った以降は代表者のみの礼とする。
- (4) 試合時間は4分とし、一本勝負で勝敗を決する。
- (5) 2チームによる順位決定戦の場合
時間内に勝敗が決しない場合は、勝敗が決するまで延長戦を行う。（延長戦の試合時間は区切らない。）
- (6) 3チームによる順位決定戦の場合
 - ①試合は、リーグ表記載順にA・B・Cとし、A-B、B-C、A-Cの順で行う。
 - ②時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとし、3試合が終了した時点で勝ち数が多い方を上位とする。
 - ③勝ち数が同点の場合は、同じ要領で順位が決定するまで繰り返す。
- (7) 4チームによる順位決定戦の場合
 - ①試合は、リーグ戦と同じ順で行い、2試合場同時進行する。
 - ②時間内に勝敗が決しない場合は引き分けとし、全試合が終了した時点で勝ち数が多い方を上位とする。
 - ③勝ち数が同点の場合は、同じ要領で順位が決定するまで繰り返す。ただし、1位・2位が決定し、3位・4位が同点という場合、それ以降の順位決定戦は実施せず、抽選で3位・4位を決定し、東海選抜大会の出場順位とする。（表彰は両校3位とする。）